



AED をご存じですか？

近年、空港や駅、運動施設、公共施設など人が多く集まる場所で AED（自動体外式除細動器）と呼ばれる医療機器の設置が進んでいます。赤いハートと稲妻の標識を見かけたことがある方も多いのではないのでしょうか。この小さな機械が救急の際にどのような威力を発揮するのか、どのようなときにどのように使えばよいのか、少しでも多くの方に知っていただければと思います。

Text by 欧州日本人医師会 福井公子 医師/麻酔科（マインツ ドイツ）

+ AED（自動体外式除細動器）とは？

心臓は体中に血液を送り出す重要なポンプの働きをしていますが、正常に動かなくなり、血液を送り出すことができなくなった状態を心停止といいます。その際の心臓の動きは、いくつかの心電図のパターンに分類されるのですが、種類によっては心臓に電気ショックを与えることで動きを取り戻す可能性のあるものがあります*。

AED は心電図で心臓の状態を解析し、電気ショックが必要な状態であれば教えてくれ、一般の方でも簡単かつ安全に電気ショックが行えるという機械です。

+ なぜ AED はさまざまな場所に設置されているのでしょうか？

電気ショックの成功率は1分毎に約7～10%ずつ低下します。日本では救急車の到着までに約8.5分（平成29年の全国平均）かかるため、到着してから電気ショックを与えても、成功率は20%を切ってしまいます。1分1秒でも早く電気ショックを与えることができるよう、日本では2004年からAEDを一般の方が使ってもよいことになり、多くの人が集まる場所を中心に設置が広がっているのです。

+ 実際に倒れている人を見かけたら？

- ① 誰かが倒れそう、または倒れているのを見かけたら、肩をたたきながら大きな声で呼びかけて意識を確認します。
- ② 意識がなければ、大声で助けを呼んで、AEDを持ってきてもらうことと、救急通報をお願いします。
- ③ まず息をしているかどうかを確認し、不確かな場合は速やかに胸骨圧迫を開始します。
- ④ AEDが届いたらすぐに電源を入れます。蓋を開けると自動的に電源が入るものや、大きくわかりやすく表示してあるものがあります。
- ⑤ 倒れている人の上半身の衣服をはだけ、AEDの電極パッドを貼ります。一つは胸の右上、もう一つは胸の左下の皮膚に直接貼ります。パッドには貼る位置がわかりやすく図示されています。

⑥ 電極パッドが貼られると自動的に心電図の解析が行われ、電気ショックが必要であれば音声で指示があります。倒れている人に周囲の人が触れていないことを確認して、電気ショックを行います。処置の後、または電気ショックが必要でないと音声メッセージがあった場合はすぐに胸骨圧迫を再開します。

⑦ 約2分おきに自動的に心電図の解析が行われ、必要であれば電気ショックを行うよう指示があります。

以上を救急隊に引き渡すまで、または意識が戻るまで続けます。



今回はAEDによる心肺蘇生の手順を簡単にご紹介しましたが、これを機に講習会に参加したり、日本救急医学会のホームページ（aed.jaam.jp）をご覧になったりしてみてはいかがでしょうか。

* 心室細動、心室頻拍という不整脈が電気ショックの適応となります。

欧州日本人医師会 電話無料健康相談のご案内

（ご注意：診察ではありません）

欧州9カ国、20名余りの非営利団体に属する日本人医師が、海外赴任や旅行など不慣れた海外生活での医療に関する、無料の健康相談を行います。

健康相談は予約制です。下記のEmailアドレス宛にメールをいただくか、医師会ウェブサイトからお申し込みください。

jmaeurope@googlemail.com

その際、大まかな相談内容（例えば、小児科についての相談など）、お名前、国名、Emailアドレス（間違えないように、はっきりとお書きください）、差し支えがなければ連絡先の電話番号もご記入ください。後日、担当者より電話相談の日時をお知らせいたします。

電話番号：+49 9951 9493 399

上記電話番号は、予約した日時しかつながりませんので、ご注意ください。

<http://www.eu-jp-doctors.org>